

設定耐久性があるログオン Cisco IOSプラットフォーム

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[設定例](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

この資料にルータのフラッシュディスクに出力を保存することをシステムロギングメッセージが可能にする方法を記述されています。

前提条件

要件

- 内部バッファへのロギングメッセージは logging buffered Command Line Interface (CLI) を使用して有効にする必要があります
- フラッシュディスクの十分な空き容量ロギング ファイルの望ましい 番号を保存するため

注: システム クロックを正しい日時に設定し、フィーチャアクティベーションの前後にルータの中央処理装置 (CPU) 利用を確認することを推奨します。

使用するコンポーネント

この資料はあらゆる特定のソフトウェア および ハードウェア バージョンに制限されません。このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

背景説明

通常、ロギングメッセージ (警告、エラーやデバッグ等) はルータのメモリバッファ

(DRAM) で保存されます; バッファが完全なとき、以前のメッセージは新しいメッセージによって上書きされます。これは断続的な問題のためのまたは高トラフィックの間のデバッグをキャプチャすることを試みるとき問題を提起します。巨大なバッファ サイズ設定はバッファが冗長なデバッグの間に充満しておよびすぐに上書きされて得ることができると同時に `alwayshelp` できません。耐久性があるロギングを使用するルータのフラッシュディスクでファイルにログメッセージを書き込むことを割り当てます。長所はルータがリブートすると同じでないメモリバッファ (DRAM) 満足させますこれらのファイルを持続します (DRAM コンテンツは再度ブートするの間に消されます。)

設定

ステップ 1. ローカル バッファへのイネーブル システムロギング メッセージ:

```
logging buffered[buffer-size|レベル]
```

ステップ 2. メモリバッファからルータのフラッシュディスクに書くことをロギングメッセージが可能にして下さい:

```
[[] batchbatch ] [[] filesizelogging } {} {sizefilesystem }  
[thresholdthreshold []] [URL {disk0:/directory | disk1:/directory}]
```

注: 割り当てられる磁気ディスク装置の量 (ファイルシステム サイズ) および個々のロギングファイル (ロギングファイル サイズ) のサイズはバイトで規定されます。

ステップ 3. イネーブル望ましいデバッグ [オプションの]

注: ファイル名形式は `log_YYYYMMDD-HHMMSS` です (たとえば: `log_20130927-112427`)

設定例

```
Router(config)#logging buffer 20000000 debugging  
Router(config)#logging persistent url flash0:/MYDEBUGS size 104857600 filesize 5242880
```

コマンドの上でルータの `disk0` の `MYDEBUGS` と呼ばれるディレクトリを作成し、ログメッセージのための `104857600` バイト (`100MB`) ディスクスペースを割り当て、`5MB` の個々のファイルサイズを規定します。

注意: アロケーションしきい値が超過するとき新しいシステムロギングメッセージのために場所を空けるために、ディレクトリの最も古いログファイルは削除されます。

外部デバイスにロギングメッセージをコピーして下さい

フラッシュディスクに書かれている個々のファイルはに IOS copy コマンドを使用して /Trivial File Transfer Protocol (FTP) (FTP/TFTP) サーバ 外部 File Transfer Protocol (FTP) 転送することができます:

```
Router# disk0:/MYDEBUG/log* ftp://user:passwd@ <ftp_server_ip_address>/
```

```
Router# disk0:/MYDEBUG/log* tftp:// <tftp_server_ip_address>/
```

確認

ここでは、設定が正常に動作していることを確認します。

```
Router#show logging
Syslog logging: enabled (110977 messages dropped, 17 messages rate-limited, 0 flushes, 0
overruns, xml disabled, filtering disabled)
  Console logging: disabled
  Monitor logging: disabled
  Buffer logging: level debugging, 31667 messages logged, xml disabled,
filtering disabled
  Exception Logging: size (8192 bytes)
  Count and timestamp logging messages: disabled
  Persistent logging: enabled, url flash0:/MYDEBUGS, disk space 104857600 bytes, file size
5242880 bytes, batch size 4096 bytes
```

```
Router#dir flash0:MYDEBUGS
```

```
Directory of flash0:/MYDEBUGS/
```

```
223  -rw-      5239168  Sep 27 2013 11:31:16 -04:00  log_20130927-112427
224  -rw-      5239631  Sep 27 2013 11:38:06 -04:00  log_20130927-113117
225  -rw-      3500757  Sep 27 2013 11:42:40 -04:00  log_20130927-113807
```

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

[TheCisco CLI アナライザ \(registeredcustomers だけ \)](#) は `certainshowcommands` をサポートします。分析 `ofshowcommand` 出力を表示するために Cisco CLI アナライザを使用して下さい。

注: [デバッグ Commandsbefore の toImportant 情報を](#) `usedebugcommands` 参照して下さい

。

関連情報

- [点滅する SYSLOG 書き込み](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)